



たきこみごはん

「たきこみごはん」は、福祉保育労働組合 東海地方本部 障害協議会の活動などを紹介するニュースレターです♪

★ 7月におこなった市交渉の感想と反省！！

障害児 7月17日(金) 北総7階会議室で行いました

名古屋市が誇る民間社会福祉施設運営費補助金制度（民調制度）。この制度があるからこそ、労働者は正規として責任ややりがいを持ち、実践を積むことができた。その民調制度が財政面から、労働条件が変わる危機的な状況をむかえようとしているため、名古屋市に「民調制度」の必要を訴えるべく臨んだ。

名古屋市は民調について、「全体の財布の中で、身を削らないといけない」。出席率の82%については「定員ベースで8割という現状から」「1.1倍受入れて頂ければ受入れて頂きたい」。他の項目で、ちよだの存続について、「この先の状況は分からない」。そよ風の定員増に伴う格付け配置については「急にあがってきた話。早期療育委員会での意見をききながら、検討していきたい」と述べる。

リップサービス無しの、淡々とした回答だった。さらに、私たちの意見や質問に対してさらに淡白な回答。別にリップサービスがききたいわけではない。これまで早期発見・早期療育の視点から、現場で奮闘してきた私たちにとって、「共に名古屋市の療育を創っていこう！」と感じる発言が1つも無かったことが、残念でならない。今後も公的責任の在り方を追求していきたいと感じた。

「名古屋市はこれまでの療育の積み重ねで、全国トップクラスの実績がある。それは、民調制度があったからと担当課も理解はしている。今後も民調制度を守るためには、私たちが『子どもにとって』の実践を積み重ねて地域の療育を牽引する役割を果たし、名古屋市に地域や現場の実態を伝えて『絶対守らねば！』という力にしてもらうことが必要」(地本書記長・藤原さんより)。子どもたちの豊かな生活と私たちの労働条件を守るためにも、これまでに積み重ねてきたことを自信に行動していきたい。

南部地域療育センターそよ風分会 田部井

分会員の感想



自分たちの思いを相手に伝えることの大切さがよく分かりました。昨年は聞いていても分からないことが多かったですが、民調についてねと分会で勉強会もあって理解して聞けました。
ほけ、分会 齋藤

今回の交渉を終えて、中々必要はこうには予算を減らすとは言いが、予算を削減していく方向が見えて、私たちにできること。現状をしっかりと伝え、私たちが訴える根拠を示していきたい。
あに分会 山下

食の違いが沢山あり、ほかには難しいんだと初めて知った。出席率の話では、重心のクラス担当している私にとって、欠席は当然の前でどうにかは体調不良からなのかなと強く思いました。
あに分会 石原



障害者 7月27日(月) 名古屋市役所東庁舎 で行いました

2015年7月27日(月)地本と名古屋市との2016年度予算交渉が名古屋市役所東庁舎12会議室で行われました。当日は地本から執行委員長、書記長はじめ32名が参加をしました。

昨年と同じく重点項目を絞って発言を組織しそれぞれの現場からの実態を出し合いました。一つ目は福祉人材の確保について、港福祉会分会やめいほく障害部分会、ねーぶる分会から福祉を目指す学生が少ないという実態や若い職員が不十分な人員体制の中頑張っている事、法人の努力だけでは限界があること、看護師の不足によって医療的ケアの必要な利用者の支援が不十分になっていることなどがだされました。

相談支援事業については、量の確保が一定出来た次の段階として質の確保をどうしていくか、現在の補助金のあり方について、一人の相談員が持つ担当ケースの上限の設定などを訴えました。

地域生活支援事業については昨年に引き続き移動支援の単価の低さ、診察時間の請求控除の問題の実態、他にも重心の利用者に対する支援や防災に関わる要望を伝えました。

名古屋市からの回答としては問題の根本は国の基本報酬アップであり、しかるべき場で要望をしているということで昨年と変わらない姿勢がベースとしてありますが、「私たち社会福祉労働者の労働環境を良くすることが、利用者への支援へつながる」ことを意識しながら粘り強く要望し、交渉を積み重ねていきたいと思えます！

さくらんぼの会分会 濱田

参加者からの感想

たくさんの難しさがあるけれど繰り返し粘り強く現場の声を伝えていくことが大切なんだということを感じました。
ねーぶる分会 増田

情勢も厳しく、状況としては変わらないことも多いけど、市交渉に参加していると名古屋市の話し方も一緒に問題に向かおうとなってくれていると感じました。
ねーぶる分会 川合

人材不足の問題に、本当にどう取り組んでいくのか、冊子にどのくらいの予算をとってどのくらいの効果が期待できるのか・・・
ねーぶる分会 元田

現場での障害を持つ当事者、支援をする者の現状を伝えていくことの大切さを痛感しました。
ねーぶる分会 松元

やまびこ福祉会

- 市交渉に参加することが初めてで慣れない場で緊張した。
- それぞれの現場での実態を知ることができた。
- 要望内容に関わる制度的な理解が足りず自己学習が必要と感じた。
- 要望以上の返答がでず残念。こちら内容を絞り具体的に検討してもらえそうな提案が必要。
- 市の担当者と直接話せる数少ない機会なので今後も大事にしていきたい。
- 障害協に参加しきれていないこともあって要望書の内容が理解しきれなかった。まずは活動への参加が第一歩だと思う。



さくらんぼの会分会

- 武藤
今回グループホームについては、夜間支援についてまだまだ曖昧な部分があり、具体的に発言するのは難しいと感じました。今後の動向を見ていく事が必要と思います。
- 濱田
今回はじめて司会進行をしました。事前の発言組織はしつつ、当日参加の方も発言が出来るように時間配分を調整しました。前回同様、重点項目を絞ってやり取りをする必要があると感じました。当日発言したかったという方もいましたが時間が取れなかったのが残念です。
- 服部
市の言っている事は矛盾しているなと思いました。
報酬単価の改定は±0円だけど、処遇改善加算が変わったからという発言には怒りがありました。処遇改善加算変わったかも知れないけど、申請だったり・実績だったり提出するのはめっちゃ面倒なんだよと言いたかった！
- 齋藤康子
大事な事は、国に…と逃げる姿勢は相変わらずだなと思いつつも、交渉する場があるのは有難いと思いました。
若者向けに福祉の仕事のイメージアップのために冊子を作ると話されていましたが、イメージアップするのなら、職員の給与アップのために様々な改善に力を入れてほしいと感じました。
仕事に魅力があっても、家族を養えない・自分一人でも食べるのがやっとだと求職者が思えば来てももらえないし、職員の退職にも歯止めはかからない。職員の処遇改善のためにも国に意見してもらおうのはもちろんですが、名古屋市独自の施策を考えてほしいと思いました。

★ 秋といえば、これだ！！ 紹介

季節は秋にシフトされて、朝晩はすっかり肌寒くなりましたね。

秋の夜長、なんだか誰かに手紙を書きたくなりませんか？

先日参加した研修でとても興味深いお話を聞きました。「遊び」についての研修でした。

いろんなお話があったのですが、その中で、ある木のお話ができました。

タラヨウの木、って知っていますか？（私はそのとき初めて知ったのですが）

「郵便局の木」と言われているらしく、郵便局の敷地内に植えられていたりするそうです。

この木の葉っぱは爪楊枝のような先の尖ったもので書くと文字や絵が浮かびあがってくる！らしいのです。そして切手を貼ればちゃんと届くんですって!! なんだかすごくわくわくしませんか。ある日ポストの中に葉っぱの手紙が入っていたら!!

私はまだ試したわけではありませんが（タラヨウの木さえ探せていませんが）このわくわくを誰かに届けたいなあ、とそんな気分になりました。



ちよだ分会 加藤

★ 秋といえば、これだ！！ 紹介



「食欲の秋」です。

栗ご飯に、まつたけごはん、なしにぶどう…！！

ただ、くだものをたくさん食べるとのどがかゆくなる私はなしもぶどうもたくさんは食べられず…。

旬のくだものをたくさん食べることができない忍耐の秋でもあります！！

みなと分会 青木



「キンモクセイの香り」ですね。

子どもの頃はあまり意識してなかったのですが、大人になってキンモクセイの香りがすると「秋がきたんだなあ」と夏も終わって少しさみしさもあり、哀愁のある香りに秋を感じます。

みなと分会 菱田

★ 秋といえば、これだ！！ 紹介



★ 編集者のひとこと

編集担当のぼけっと分会の渡辺です。ぎりぎりですが、9月中に発行することができました。原稿にご協力いただいたみなさんありがとうございました。市交渉の報告では、私たち労働者がよりよく働けるだけでなく、利用者にとっても安心して施設を利用できるようにこれからも粘り強く現場の現状を伝えていく必要があると改めて感じました。

秋といえば！！については、これからの季節に皆さんが楽しみにしていることややってみようと思っていることなど、みんなで楽しめるようにと思いお願いしました。ぜひ、いろいろな人の秋の催しを試してみたいですか？

たきこみごはんに関するご意見や感想はこちら (pocketbunkai@yahoo.co.jp) まで。お待ちしております！

次回の発行は12月になります。お楽しみに！！

